

お詫びと訂正

『看護展望』2018年11月号（Vol.43 No.13）におきまして、以下の誤りがありました。本誌をご購読いただいている皆様、また関係の皆様にはご迷惑をおかけいたしましたことをお詫びし、ここに訂正いたします。

メヂカルフレンド社編集部

（最終更新日：平成30年11月13日）

該当箇所：p.17 ▶左段5行目

誤	正
多忙さの解消に加え、病院全体でベッド稼働率を高めるには、各病棟が「他科患者も受け入れる」ことが鍵となると考えたのである。そこで「連携病棟」というしくみをつくり、他科患者であっても、ベッドが空いていて、連携病棟の疾患であれば受け入れるという取り組みを始めた。	これまで、病院全体でベッド稼働率を高めるために、空床があればどんな診療科でも受け入れていた。とはいえ、1病棟へ10診療科を超える患者の受け入れは安全性・効率性からも望ましい環境とはいえない。そこで、「連携病棟」というしくみをつくり、優先して連携病棟間の診療科を受け入れる取り組みを始めた。